



平素より法義相続本廟護持にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。
このたびの新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、寺院の法要・行事は中止・延期、葬儀・法事も簡略化を余儀なくされ、また、各組や町のお講も開けず、相続講制度にも直接大きな影響を及ぼしています。ご門徒方ならびにご寺院方の皆様の暮らしも日々厳し

大寄 おおより 小寄

真宗大谷派（東本願寺）

小松教務所

〒923-0904

小松市小馬出町26

Tel 0761-22-0555

発行者 保木 悦雄

編集 小松教区教化委員会

さを増しており、大変なご苦勞をされていることと存じます。心よりお見舞い申し上げます。これからの先行きが見通せない中、多くの人々が不安と苦悩と孤独を感じて生きていま

例えば、独りで辛くて寂しい時、愛する人や家族、親友を想うことで、頑張れるということがあります。このような気持ちの奥底には、実は「すべての人々といのち通い合う世界を共に生きたい」という深い願いが息づいているのではないのでしょうか。普段の日常ではなかなか気付かない、いのちの願いです。この根源的要求、普通の願いを本願といえます。この本願から私たちに与えられているのが念仏

南無阿弥陀仏は未来を開く

小松教務所長

もつぎ えつお
保木 悦雄

す。しかし、このような私たちにこそ、誰一人見捨てないという阿弥陀仏の大悲がはたいてくださるのであり、その本願を常に憶念して念仏申し合うところに、この困難な現実を生き抜いていく智慧と意欲と力を賜るのではないのでしょうか。

なのです。この本願をたのみ、念仏を申す時、はからずも寛容な心と謙虚な心が恵まれます。そして、互いに尊敬し合える未来が開かれ、その未来に向かって今を精一杯生きる力が与えられてくるのです。したがって、念仏

は決して自分の慰めや諦めなどではなく、すべての人々と共に生きようとする力なのです。
南無阿弥陀仏は未来を開き、私の生きる力となる
(広瀬 惺氏)

真宗の教えは私たちの生きるよりどころであり、心の支えです。そして、お寺やお講の集まりは、仏法聴聞の中でお互いに語り合い、御同朋としてのつながりを確かめ合う大切な場です。人と人支え合い、助け合い、安心して暮らせる地域社会にとって、なくてはならない必要な場です。今後、この大切なつながりの場をどのように回復していくのが、最も重要な課題と受け止めます。
緊急事態宣言が解除されて以降、新たな生活様式が提唱され、徐々に社会的活動が再開できる兆しが見え始めています。皆様におかれましては、お体にはくれぐれもご留意いただき、念仏を申し合わせてこの難局を乗り越え、新たな未来を開く歩みを共にしてまいりましょう。

対談 相続講

小松教区門徒会長

西田 保氏

前十二日講門徒会長
真宗大谷派参議会議長

中田 郁夫氏

小松教区会議長

能邨 勇樹氏

小松教区では、門徒会が主体となって相続講を受け継いできた歴史があります。その重責を担ってきた方々にお話を伺いました。今回は最終回。聞き手は広報委員の日野、山内です。

日野 小松教区の今後についてはいかがでしょう。

西田 教区を盛り立てていきたいです。そのためには、お寺さんの協力が必要です。法話などで相続講のお話もできるだけしていただきたいと思います。

中田 御講の充実ですね。相続講については、各組に担い手がいない。後継者がいない。そのため、各町内の世話方の組織が分解していきつつあります。それを立て直すには、門徒だけでは無理なところもあるんです。町内の門徒の手次寺院の力添えがなければ、組織を盛り返すことはできません。そういう意味では、

お寺さんの力は絶対に必要だと思っています。

日野 お二人のお話をお聞きして、小松教区といえば御講だと改めて受けとめました。

山内 先ほど、中田さんから「本山は自分に会うところ」とお聞きして認識を新たにしました。実は私も、聞法とは、自分を知らされることだ、目先の欲望を満たすことは実はホンモノではない、と話していますがなかなか伝わりません。

中田 先ほどの続きですけれど、本山が自分に会うところだと気づいてから、お内仏にお参りするときの気持ちが変わったんです。それまでは、願いを叶えてもらいたいという思いも

どこかであつたんですが止めました。そんな「うまくいきますように」と仏さんに頼んでも、それは「知らん」とおっしゃるに決まっていますよ。

能邨 先ほど西田さんから、お内仏で「お礼を遂（と）げる」とありました。（神仏に対して）愚痴を言ったり、頼んだりといういろあると思います。そういう何気ない言葉がすごいなあと思いました。

中田 そうやね。私の父親も「お礼を遂げる」って言っていました。

西田 よく私のばあちゃんが言うのと。本当に信心に篤くて、いつでも「なんまんだぶつ、なんまんだぶつ」と口から出たね。

能邨 『御文』さんでは、仏恩報謝の念仏ということですね。

山内 もう一点、法義相続、本願護持と言われますが、相続講がはじまった頃は、本願相続だったわけですね。そこで、相続という言葉が大事ではないかと個人的に思っています。つまり、次の世代に伝え、手渡すところまでが相続だと。小松教区は、門徒会がしっかりと組織されています。そんな組織がせつかくあるのですから、将来どのように手渡ししていくか、というのが課題だと思います。何かお考えなどがあればお聞きしたいです。

西田 町内のお世話ならできても、責任のある重世話方（おもぜわがた）はできないと言われることもあります。世話方がいないので御講もやめて、相続講金も集められんということも出てきています。そういうところへは、役員が行って町内会長さんをお願いしたり、老人会の会長さんをお願いしたりすることもある。なんとか続けたいだけのようにしているのが現状です。現実には厳しいです。

中田 まあ、後継者がいない。何とかせんなんなあ、と悩んでいるのが現在です。なかなか、こうすればいい、という名案はありません。

私が苗代組の門徒会の会長になると、同時に神社の氏子総代も頼まれていたんです。それが、当時の苗代組の役員さ



門徒会長 西田氏



小松教区会議長 能邨氏

中田 これもとんでもない話ですけど、実際にやってみて、人を集めて、喜ぶ顔を見ると、これはやっぱりいい仕事やなあと思います。相続講金を集めるのは、あまりいい仕事ではないけど。そう思っただけで済みました。当時比べて、相続講金は集まらなくなりました。それは、集める人が、この仕事を面白くないと喜ばないからじゃないでしょうか。だから、相続講のお世話をしている人に、何か喜びを感じるよう

日野 小松のお同行さんは、本当に熱いものがあります。

んは、5回も6回も頼みに来るんです。それは熱心に。それと、教区のお世話面白そうやなあ、と思ったんです。ふざけた話に聞こえるかもしれないんですが、私はそういうきっかけで会長になったんです。

に考えなければいけないと思います。

西田 それと、世話方になっていただく方を、慎重に選ぶことも大事です。

能邨 若い人たちにとつては、お参りに対する優先順位が低いんですよ。昔は、何があってもお参りを大切にしていた。

最近、三重の方でお仏壇をしまう方がいまして、なぜかと聞くと、仏壇やお墓があると、自分の子どもに迷惑だということなんです。お参りは面倒なこと、もういらぬのだと。そういう現状の中で、何か付加価値を付けられないかなあと思うんです。例えば、お寺の場合はお参りに行ったときに、身の回りのことで何かの手助けをしたり、遠くにいる家族の橋渡しのよう

なことであったり。

地域のなかでも、相続講に特化するのではなく、もっと手を合

わせていくことの優先順位を上げられるような取り組みを出来たらなあ、と思います。

先ほど、西田さんが「世のなか安穩なれ。仏法ひろまれ」とおっしゃったことに感動したんです。それは、相続講が一派を榮えさせるためだけのものではないんだと。同朋会運動でも言われていますが、地域



参議会議長 中田氏

を支え、その人のために幸福を授けるために仏法を開いていく。教区のため、宗門のためと言われた後に、やはり平和のためと言われた西田さんのすごさを感じました。

西田 いえいえ、この15年間、いろいろな人の話を聞き、人と会って本当に勉強になりました。それが私の宝です。

能邨 それともうひとつ。私たち寺方に、本当の現状を知ってほしい。ちゃんとご門徒の方と話をしたい。いかに、いま言われたとおり、もう取り返しのつかないところまで来ていると思っています。特に手次のお寺をはじめ、在所のお寺はただ存在しているのではなくて、いろいろな方々の支えによってあるということ。本山のことも、寺であれば宗門に組しているわけ、現状をしつかり理解しておかなければならないと思

います。

今日お二人の意見をおし、寺方が何をしたいかなければならないか、話し合いをしてみたいです。考えてほしいです。

それがこれからの新しい相続講のあり方であってほしいと思います。

日野 能邨さんもおっしゃったとおり、私も感動しました。門徒さんのご苦勞と、これからの課題がよくわかりました。今日は皆さん本当にありがとうございました。

(終)



【2019年4月小松教務所にて】

真宗Q&A

Q 「御講くおこう」の
始まりはいつ？

A 歴史上初めて御講が創られたのがこの地、能美郡（のみごおり）であることを御存知でしょうか。

文明十八年（1486）、本願寺第八代蓮如上人の『御文』に初めて「講」のことが書かれています。能美郡にご門徒の手により四講（しこう）という講組織が創設されたとのこと。当時の様子は、選抜が必要など多くの参詣があり、教化の面に留まらず、一年間に報恩講の志を含めて六千足（約九百万円）もの懇志を本願寺へ運び財政面の大きな支えにもなっていたようです。能美郡門徒の熱い思いがひしひしと伝わってきます。

宗祖親鸞聖人の御座所・本願寺は、第十一代顕如上人の時代になっても、ご門徒一人ひとりの支えにより護り続けられてきました。そして、第十二代教如上人から能美郡四日講惣道場（のみごおりよ

さらに詳しくは

小松教区ホームページ をご覧下さい！



【教如上人と郡中御影】動画配信中！

小松教区教学研究室
『郡中学舎』研究員
加藤彰教

っかこうそうどうじょう）へ贈られたものが「郡中の御影」です。惣道場とはご門徒によって運営される道場のことです。ご門徒による「伽藍（がらん）なき御坊」を意味します。御講は聞法（もんぽう）の場であり、同時に仏法を護り伝える場でもあります。町単位の小さなものから小松教区全体のものまで、ご門徒一人ひとりの手でしっかりと護り続けられているのです。

いま、あなたに届けたい法話

真宗大谷派では、新型コロナウイルス感染症のため集会が自粛される間にも、仏の教えにふれていただきたいという願いのもと、4月1日より随時、15分程の法話を動画で配信しています。お子さんやお孫さん、ご家族と一緒にご覧ください。



https://jodo-shinshu.info/ima_howa/



【教区教化事業のご案内】

左記の掲載内容は、6月1日現在の予定です。「新型コロナウイルス感染症」の感染拡大に伴う対応等により、急遽変更される場合があります。

◇十二日講

毎月12日午前9時半から
会場 常磐会館（小松教務所）

8月は全戦争犠牲者追弔法会と兼修

◇日曜講座

毎月第1、3日曜日

午前9時半から

【7月】5、19日

【8月】2日

【9月】6、20日

【中止または規模縮小の事業】

◇教区帰敬式（おかみそり）中止

◇郡中御影報恩講

7月23日 内勤め

※一般のご参詣はご遠慮ください。

◇暁天講座 中止

※お問い合わせは小松教務所まで